

25/3/10 名古屋市議会本会議（名古屋城部分）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

議長：次に、成田たかゆきくんにお許します。

成田たかゆきくん。

成田たかゆき（自民）：本市では、平成3年に国や県に先駆けて福祉都市環境整備指針を策定し全ての人にやさしいバリアフリー整備に取り組んできました。

そのうち、平成25年に障害者差別解消法が成立し、配慮が必要な方への合理的配慮の提供が義務付けられるなど、ハード、ソフト両面でのバリアフリーの推進が重視されるようになりました。

これを受けて、名古屋市では市職員が、障害のある方に対し、不当な差別的取り扱いをしないこと、また、合理的配慮を行うために必要な考え方などをまとめた名古屋市職員対応要領を策定し、服務規律として順守を求めています。

しかしながら、令和5年6月3日には、本市主催の名古屋城バリアフリーに関する市民討論会で差別事案が発生をし、検証委員会の最終報告において市職員の人権意識の低さが指摘されたところであります。

さらに最終報告を受けて、今般、2月定例会に上程されている障害者差別解消推進条例の改正案では、市が差別事案の当事者であれば場合の紛争解決の仕組みが追加されています。この点について、今から7年前、条例設置の当時、検討にあたり私が平成30年3月開催された財政福祉委員会において、次のように発言をいたしておりました。

例え話という前提ではありますが、名古屋城の関係で差別に該当することになったら市長が自ら勧告することになるのかと正したところ、当局からは市が当事者となるのは想定していない。市が最後まで責任を持って、障害者の方と対応するとの答弁でありました。

しかしながらまさかその5年後に残念ながら現実のものとなったことは、極めて許し難い事実でありその時点で既に市が当事者となる別事案の解決に向けた課題は想定できていた。いや、想定すべきであったことがここで強く指摘をしておきます。

また、差別事案の解決に向けて、市の責任によって対話により解決するという当局の姿勢は結構ではありますが、意気込みだけでは解決に時間がかかるばかりであり、ひいては障害者の社会参加を阻むことが懸念されます。そのことは、今回の車いす利用者の市バス乗車の事案からも実感しているのではないかと思います。そこで、健康福祉局長にお尋ねいたします。障害者差別のない共生社会を推進するため、バリアフリーの理念を市職員全体にどのように浸透させていくのか、また障害者差別解消に向けた実効性のある仕組みをどう構築していくのかお答えください。

本日は多くの車いす利用者の皆さんが傍聴にお出かけいただいております。それぞれ誠意あるご答弁をお願いをいたします。

山田健康福祉局長：健康福祉局には、障害者差別のない共生社会の実現に関し、2点のお尋ねをいただきました

次に、バリアフリーの理念と実効性のある障害者差別解消の仕組みについてでございます。本市では障害者の社会参加を制限している様々な障壁が社会の側にあるという考え方に基づき、建築物や交通などのハードの面でのバリアフリーに加えまして、介助者等の人的支援や、障害理解のための研修など、ソフト面でのバリアフリーを推進しており、市職員対応要領に意識のバリアフリー構造を定め、全職員に周知をまいりました。

しかしながら、議員ご指摘の通り、市を当事者とする差別事案が発生をし、職員の人権意識の低さが露呈をしたところであり、この反省を踏まえまして、改めて障害者差別化解消推進条例の改正案に、市職員は市職員対応要領を遵守し、率先して意識のバリアフリー行動を実践することを明記いたしまして、研修等を通じてバリアフリーの理念を浸透させてまいります。

また、差別事案の早期解決に向けて、第三者の立場から助言、あっせんを行う名古屋市障害者差別解消調整委員会についてよりの確な調整ができるよう、障害当事者の委員を増員する他、相談を受けてから解決に向けての標準的な事務処理期間を設けるなど、迅速で実効性のある紛争解決の仕組みを検討してまいります。

健康福祉局といたしましては、当事者の立場に立ち、建設的対話による相互理解を通じて、ハード、ソフトの両面にわたるバリアフリーを推進するという姿勢を徹底できるよう、全庁の推進役となってバリアフリーの理念の推進等を図り、障害者差別のない共生社会の実現を目指してまいります。以上でございます。

成田たかゆき（自民）：それぞれご答弁ありがとうございました。

次に障害者差別のない共生社会の推進についてご答弁をいただきました。再質問いたします。2026年には、愛知・名古屋でアジア・アジアパラ競技大会が開催されます。大会に向けては、メイン会場となるみずほ陸上競技場に加え、他の競技会場やアクセスルートについても、当事者参画によるバリアフリー化の機運が高まっていることを実感しているところでもあります。

今回の事案では、健康福祉局に当事者参画による積極的な対話を促す姿勢が不足していたと言わざるを得ません。

局長の答弁にあったように、今後は健康福祉局が全庁の推進役となり、バリアフリーの理念を確実に浸透させていただきたいと思えます。また条例が改正をされることでもあります。最高のゴールは、私は常々申し上げているんですが、名古屋市から障害者差別がなくなり、法律や条例は要らなくなることであり、差別を生じさせないことが何より大切と考えますが、市が当事者となる障害者差別の解消に向けて健康福祉局としての決意をお伺いいたします。

山田健康福祉局長：健康福祉部に対しまして、市が当事者となる障害者差別の解消に向けた局長の決意ということを再度お尋ねをいただきました。議員ご指摘の通り差別を生じさせないための取り組みは極めて重要であると認識をしており、障害者差別相談センターに寄せられるし、市職員による不適切な発言や態度などの相談内容を共有し、当事者がどういう場面で差別を感じているのかを全部職員に周知することを通じて、障害および障害者理解を促してまいります。

さらに、差別事案に係る検証委員会の最終報告において、対話によるバリアフリーを推進するための仕組みの整備が提言されたことを受けて、令和7年度から開始を予定しているバリアフリー整備相談支援事業では、市が行う施設整備において、配慮が必要な当事者が参画する仕組みを、仕組みをつくることを通じまして、ハード面でのバリアフリーとともに、当事者の立場に立ったソフト面での意識のバリアフリーを浸透させてまいります。

これにより障害および障害者理解による意識のバリアフリーの推進に取り組み、条例が目指す障害者差別のない共生社会の実現に向けて、率先して取り組む決意でございます。

以上でございます

成田たかゆき（自民）：ありがとうございました。すぐにでもと、ただもう1年経ってます。本当に早急をお願いします。

私のもとにこういう相談があったということ自体が問題なんですよ。

そこはよくよく踏まえてすぐにでも早急にご対応いただきたいと思います。ここでですね河村前市長の政策を丸ごと継承された広沢市長にお尋ねをいたしたいと思います。

令和5年6月の名古屋市のバリアフリーに関する市民討論会は、8月の文化庁復元検討委員会への申請に合わせたスケジュールが優先された結果、障害当事者への配慮など事前の準備がおろそかとなり、当日の運営で障害者差別という最悪の形で露呈し、今なお当事者を苦しめています。

市民討論会の事案では、本市職員が差別発言を制止しなかったことに加え、河村前市長が「熱いトークもあってよかった」と発言したことで、より問題が深刻化いたしました。

今回の市バスの件についても、今後の対応によっては不当な乗車拒否、また合理的配慮の不提供と判断をされて重大な差別事案として、紛争解決の仕組みの対象にも、しかねないと私は危惧をいたしております。

そこで、障害者差別のない共生社会の実現に向け、市民討論会における差別事案の反省をどのように検証し、今回の市バスの事案の早期解決に向けて、どのようなリーダーシップを発揮されるのか、広沢市長の考えるバリアフリーの理念とともにお聞かせをください。

広沢市長：障害者差別のない共生社会の実現につきまして再度のお尋ねをいただきました。市民の皆様の生活を支える公共交通機関として、安全に安心して市バスをご利用いただけるよう、社会的障壁の除去や合理的配慮の提供を行うことは、交通局の責務であると考えております。

しかしながら、名古屋城バリアフリーに関する市民討論会における差別事案の反省を生かし、早期に対応すべきところ、議員ご指摘の事案のように大変に時間を要していることにつきまして、私といたしましても大変に重く受け止めております。

こうした状況を受け、交通局には車いすご利用の方に対して今の状況をしっかりとご説明するとともに、早期解決に向け、車いすメーカーとも密に調整を図りつつ、どのようにしたら安全を確保しながらご乗車いただけるか、前向きな姿勢で早急に検討するよう指示をしたところでございます。

また、名古屋市全体で障害者差別の解消や人権問題の解決に向けて取り組んでいくという観点からも、一つ一つの事案にしっかりと向き合うとともに当事者の立場に立ち建設的な対話を重ねて相互理解を深めながら課題を解決することが重要であると考えております。

そういった中で、障害者の社会参加を制限している様々な障壁は、社会の側にあるという基本認識をいたし、ハード面からのバリアフリー化だけでなく、意識のバリアフリーを徹底し、障害のある方もない方も互いに尊重し、ともに生きる共生社会の実現に向けて率先して取り組んでまいります。

以上でございます。

成田たかゆき（自民）：広沢市長、大変丁寧にご答弁をいただきましてありがとうございます。

当時、当時は当事者でもなく、副市長の機関でもなかったという中で、ただこれは解決をせねばならん事案でありますから、ぜひ真摯にご対応いただきたいんですけども、ただねこれ単純に車椅子の進化に追いついてないだけなんではないかなとも見えるわけでありまして、車椅子利用者になつたというのか、私は変わるのは市バスであり名古屋市ではなかろうかなと思います。

車椅子問題があるから乗れない、安全が保てない。これはね独善的ではないかなとも私は思います。

バスに問題があるから誰もが利用できる市バスになればいいと、こういう発想を私は持つべきではなかろうかなと思います。

実際に皆さんご存知の通り、全車ノンステップバスにされたじゃないですか。

交通局のホームページを覗くと、お年寄りや体の不自由な方を始め、どなたにも利用しやすい人にやさしいバス、人に優しいバスの導入を進めています。こう書かれていました。

名古屋市バリアフリー討論会における差別発言、それを放置、そしてこのたびの放置。市の職員の本質的な部分は、私はまだ変わっていないこう理解をいたしております。

また、2026 アジア大会アジアパラ大会開催時には、おそらくですねこれ実際に伺ったんですけども、海外から見たこともない形式の車いすでお越しになる方もたくさんお見えになるんじゃないかなという、そういった言葉もありました。

もし今回と同じ対応となった場合、毎回検証しないと乗れなくなっちゃいますからね。

個別かつ適切に合理的配慮ができるよう先頭に立って、ぜひ市長には指導をいただきたい。

そして今回はきちんと検証していただかなければいけませんけども、バリアフリー理念のもと、市長にはせめても現場研修の場面、ここにぜひ立ち会っていただきたい。
この2点について、名古屋市のトップリーダーとしてのご見解をもう一度伺いたいと思います。

広沢市長：障害者差別のない共生社会の実現につきまして、再度のお尋ねをいただきました。交通局では、交通事業者として、車いすご利用の方が安全に市バスにご乗車いただけるようスロープにより、乗車時や運転時の車内におけるお客様の安全確保を第一に取り組んでおります。

議員ご指摘の事案の解決に当たりまして、改めて実車検証を通じて、車いすご利用の方にも代替案によって安全にご利用いただけるか確認する必要があると考えております。

そのため、まずは車いすご利用の方に対し、改めて現状の説明をすぐにも行うとともに、できる限り速やかに実証検証を実施し、早期解決を図って参ります。

そして事案の解決、早期解決に向けて、交通局長からもバス車両を用いた検証にできる限り速やかに取り組むと答弁がございましたが、私からも早期解決に向けた取り組み状況をしつかりと確認をしていく中で、議員よりご提案いただきました実車検証への立会いを行うことも含め、前向きに取り組んでまいります。アジア・アジアパラ大会への開催に向け、ハード面ソフト面それぞれのバリアフリー化を進めていく中で、議員ご指摘の海外製の電動車椅子をご利用される来訪者が、安全、安心に市バスをご利用いただけるようしっかりと取り組んでまいります。以上でございます。

成田たかゆき（自民）：ありがとうございました。隗より始めよであります。

バリアフリーの理念に立ち、名古屋のリーダーが直接示していくこと、これ非常に重要なことであろうと私は思います。14年ぶり5ヶ所目となりました瑞穂公園陸上競技場地区バリアフリー基本構想に至る際、実は私も障害者の方と一緒にアクセスルートを検証したときに車椅子移動したことをどう表現したらいいか私悩みました。それを伺ったときには、もちろん歩くなんですよと、そうわれまして大変恥ずかしい思いをいたしました。つまり、今回のことは障害者の足を奪った、歩けなくしたというのが当事者の他ならぬ事実であります。元々存在した市民サービスがなくなる。できたことができなくなり、名古屋市自ら社会的障壁を築いていたら本末転倒であります。まずは個別事案を解決することを期待し、差別のない社会、社会的障壁、また合理的配慮という言葉聞くことのない、必要のない名古屋市とともに築いていければと思っております。以上で全ての質問を終わります。

ありがとうございました。

議長：次に、浅井正仁くんにお許しいたします

浅井正仁(自民)：それでは議長のお許しをいただきましたので通告に従い、順次質問させていただきます。

そして最後の質問。名古屋城天守閣の木造復元について。前回議会で、我が党の成田議員は広沢市長に、名古屋城木造復元に対する姿勢をお伺いしたので、私は名古屋城木造復元の本質をお伺いしたいと思います。

初めに木造復元をする理由について、元々あった名古屋城の天守閣は昭和 20 年の空襲により焼失、昭和 34 年に今の鉄骨鉄筋コンクリート天守閣として再現されました。

これが 2 度と燃えない城にしたいという当時の名古屋市民の思いを込めて、鉄骨鉄筋コンクリート造で再建したものです。

それをあえて壊れてもいない現在の天守閣を取り壊してまで木造に復元する意味は何かということです。昭和 35 年に鉄骨鉄筋コンクリート造で再建された熊本城は、平成 28 年 4 月に起きた熊本地震で大きな被害を受けました。このとき熊本市民は取り壊さずに傷ついた熊本城を地震の前の姿に戻すことが、震災の復興の象徴だとして、あっという間に機運が高まり、地震からわずか 5 年後には完全な復旧がしています。

しかし名古屋以上は、5 年どころか 10 年以上経っても、目途すら立っていないというのが現状熊本城が短期間で復旧できたのは、傷ついた城を元に戻してあげたいという、熊本市民の機運の高まりとそして全国の思いが一つになったことで多額の寄付が集まってつまり、元に戻すという機運の高まりがあったということ。

一方名古屋城はというと、焼失前の図面があるとか、10 年近く前の 2016 年の市民アンケートの結果を未だに根拠にして、木造復元は市民意見だという説明を繰り返しているだけ。令和 5 年度の寄付金は年間 2000 万ほど、当初の頃の約 10 分の 1 になりました。私には市民の復元の機運が高まっているとは思えない。

そこで一点目の質問、なぜ二度と燃えない城にしたいという、名古屋市民の強い想いで建てられた現在の天守閣を取り壊してまで、木造で復元する必要があるのか、広沢市長の明確な回答を求めます。

次に名古屋城よりずっと古い昭和 8 年建築の名古屋市役所本庁舎は大規模な免震補強を実施してまで重要文化財に指定されています。

本庁舎は免震して文化財にしたのに名古屋城はなぜ解体するのか。市長、現在の天守閣は戦後生活すらままない中、再建を望む強い思いと多額の寄付があって再現されました。そして昭和 30 年代の建築技術を現代に伝える貴重な建築物です。

つまり、市の指定文化財や国の登録文化財になる要件は十分に満たしているといえます。単に木造復元の邪魔だから壊せるというものでもありません。丁寧に進めるなら現在の天守閣の価値を評価し、徹底的に記録保存をして後世に伝えることが重要なはずなのに、こうした検討がほとんどされていない。これが復元が全く進まない最大の原因です。

そこで 2 点目の質問、現在の天守閣はどのような価値があるのか、例えば市の文化財調査委員会や文化庁に、現在の天守閣の本質的な価値を聞いてみたらどうでしょうか。

そしてその結果も踏まえて考えることこそが丁寧な進め方だと思いますが、広沢市長のお考えをお示してください。以上、1 回目の質問を終わります。

広沢市長：2 点目は、名古屋城天守閣木造復元についてでございます。

まず、木造復元の必要性についてでございます。

名古屋城の現天守閣は、市民などから多くの寄付をいただき、戦後の建設資材の不足や都市の不燃化という社会状況のもと、博物館として、鉄筋コンクリート造で再建されております。私といたしましては、精度の高い外観復元が行われている点で、近代城郭の理解に寄与し大きな役割を果たしてきていると認識をしております。

一方で木造復元を進めるに当たりましては、世界最大級の木造建築物として、外観のみならず巨大な柱やはりが構成する内部空間によって、往時の天守内部を体感できることに大きな意味があると考えております。

木造復元とした理由といたしましては、耐震改修などによる現天守閣の存続と比較考慮した結果として、明治維新より多くの城が破却される中、永久保存するとされた経緯を踏まえ、文科省の基準に基づき、可能な限り史実に忠実な復元がされた天守は、先に復元された本丸御殿とともに本質的価値の向上と、理解促進にとってより大きな効果が得られることから、本丸の中心として往時の姿を感じていただくようにするものでございます。

木造天守を往時の姿に戻しつつも、バリアフリーとの両立を図り、より多くの方に観覧いただくことで、名古屋城がより市民の誇りとなる存在になることを目指し、皆様ご理解を得ながら進めてまいりたいと考えております。

次に現天守閣の価値の評価についてでございます。

現天守閣は再建後 65 年を経過し、文化財となりうる一定の価値が生じてきているものと認識をしておりますその価値について再建の経緯や目的、機運の高まりと再建資金など、文化庁や有識者のご意見をいただきながら、木造天守整備基本計画案の中に取りまとめてまいりました。

このため私といたしましては、現天守閣の価値の評価は適切になされてきているとも受け止めておりますが、これまでご意見を頂戴してこなかった専門家からのご意見を伺うことにつきましても検討したいと考えております。また、既に記録として残している映像などに加え、解体工事の図面、工事写真や映像、建物の一部の採取、保管など様々な記録を活用し、広く発信していくことで、現天守閣の記録、記憶を後世に繋いでいくなど、丁寧に進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

浅井正仁(自民)：それから名古屋市長については質問させていただきます。

とりあえず市長、私の質問は戦後復興の象徴であり、市民の強い思いが込められた天守閣を壊してまで木造で復元する理由です。設計図があるとか資料が豊富、これ、木造で忠実に復元ができるし根拠を言ってるだけなんですよね。根拠なんですよ、もう一度言いますが、私が聞いたのは戦後復興の象徴を市民の強い思いが込められ現在の天守閣を壊してまで木造で復元する理由なんですよ。

聞き方を変えますが、現在の天守閣を再現したときに戦後復興の象徴として市民の強い思いと多額の寄付がありました。

今検討している木造天守閣は、どのような象徴として位置づけているのか、また木造復元するのに対する市民の強い思いの根拠、さらに寄付の現状はどうか、もう一度わかりやすく答弁をお願いしたいと市長をお願いしたいと思います。次に私の記録では現在の天守閣の前に特設会場を設置して、木造を復元したお城の内部をVR映像で見せたり、現在の天守閣の瓦や金具などでキーホルダー等を作る検討もしていました。また以前文化庁から正門を入ったところから天守閣に至る通路、小天守から大天守そして1階から最上階の売店までを最新の映像技術で記録して公開するなど、後世に記録として伝えるための取り組みが必要だと言われました。

広沢市長は先ほど現在の天守閣を映像で見せたり、解体資材の保管や活用を検討して、広く発信していくそして市民の記憶にとどまる、後世に伝えると答弁しました。

でも現在の事業の進め方は国指定の特別史跡である石垣の保護と復元する天守閣の設計やバリアフリーの検討はしていますが、肝心の機運の醸成や現在の天守価値の評価は中途半端なまま。だから丁寧な検討には程遠いと言っています。

広沢市長、もう一度聞きますが、現在の天守閣の価値を評価する、そして木造復元に対する市民の機運の醸成を図るため、丁寧に進めていくとのことですが、具体的に何をどのように進めていくのか、広沢市長の丁寧とは何を言ってるのか、もう少し丁寧に市長の答弁をお願いしたいと思います。

広沢市長：名古屋城天守閣木造復元につきまして再度のお尋ねをいただきました。

まず現天守閣は記録、記憶として後世に継承してまいります。一方で、現代において木造天守復元事業を進めることの意義は、特別史跡名古屋城の本質的価値の向上と理解促進にございます。本質的価値を構成し、江戸時代から存在する石垣の上に往時の姿で天守を復元することをでその価値がより高まり、本丸御殿などと併せまして、多くの方に歴史文化的空間を体感して親しんでいただくことにより、世界に誇る名古屋の歴史と文化の象徴になるものと考えております。

また、平成28年に実施した2万人アンケートにおきまして、回答者の6割以上の方に木造復元に賛同いただけたことが、木造復元に対する市民の思いの表れであると受けて止めております。

加えて金シャチ募金につきましては、平成29年から7月から平成29年7月からの募集開始以降の予算額の合計が約11億円あるのに対し、令和7年1月末までにいただいたご寄付の合計は8億5000万円にとどまっております。続きまして、機運醸成はもう映像復元の実現に大きく必要な大きな要素であると認識をしており、コロナ禍の影響を受けての見合わせなど、一時的に取り組みを縮小したこともございますが、平成30年度より木造復元イメージのVR映像の体験を、名古屋城や区民まつりの会場などで実施をしております。他、解体部材を活用したグッズ化の検討など、その時々状況に応じた取り組みを進めてきたものと認識をしております。最後に現天守閣の価値の評価につきましては、先ほど申し上げました通り、適切に評価が行われ、記録の保存と記憶の継承の考え方も整理されているものの、

解体部材を活用したグッズ化などは現天守閣を解体することで初めて可能となるため、段階的に実施していくものでございます。

木造天守の復元を進める上で、議員ご指摘の石垣の保存対策を含めた史跡の保護、現天守閣の価値の評価、機運醸成に加え、バリアフリーとの両立が欠くべからざる要素であると認識しております。

私といたしましては、現在観光文化交流局で行っております木造天守復元事業に対する総括の内容を広く市民の皆様にお示しをした上で、事業を再スタートさせる際には、これらの要素をいずれも着実に進めていくとともに、名古屋城の本丸全体を往時の姿に戻していくという期待感を市民市民の皆様にとっていただけるよう伝えていくことが、丁寧な進め方であるというふうに考えております。

以上でございます。

浅井正仁(自民)：答弁をいただきました。本当に丁寧に進めていたら今頃、解体が始まってたんじゃないかなと思ってます。今からでも遅くはないと思ってます。

そこで現在の天守閣の価値を評価して市民の木造復元に対する機運の醸成を図るため市長に一つ提案があります。私のところに1枚のFAXが届きました。

その中で芳名板の謎という話がありました。

正門に入って右側に設置された芳名板が、なぜ天守閣の屋根裏に移設されたかっていうFAXが来たんですよ。多分この方はね、名古屋城で働いていた人だと思うんですけど、現在の天守閣は多額の寄付により再建されたことを知られていますが、一体どの程度の方が寄付をしたのか、もしその記録が残ってるなら、市民や観光客に見せることで、現在の天守閣の再建への市民の強い思いをこれ伝えることができると思うんですけども、そこでFAXをいただいて本当にその方銘板が、名古屋城の屋根裏にあるのか、文化財保護課長さんに電話して、今から一緒に行こうと言って、8月の暑い日に名古屋城の屋根裏へ登って、見さしていただきました。そしたらその芳名板本当にありました。それがこれです。

丹羽久章さんとか人がいるで、この寄付者を誰も知らない。本丸御殿は展示されている。この方たちは何にもわからない。そこに僕のおじいちゃんもありました。びっくりしました。そういうことがありまして、ここで提案というのはこの芳名板を下ろして展示することで、市民や観光客に現在の天守閣の価値を伝えてはどうなんでしょう。

そして今後の木造復元に向けて、当時のような機運の醸成を図ってはどうかと思います。一度検討していただけないものでしょうか、市長ご答弁をお願いします。

広沢市長：名古屋城天守閣木造復元につきまして再度のお尋ねをいただきました。私も市長に就任してから名古屋城を視察した際に現天守閣の天守裏を拝見しておりまして、個人、企業の名前の記された芳名板は多くの方からご寄付をいただいた浄財によって現天守閣が再建された証であると実感をしたところでございます。議員ご指摘の通り、現天守閣の価値を広く市民に知っていただくためにも、これまで市民の目に触れてこなかった芳名板を取り外し、適切な管理のもと例えば現天守閣と同じ時期に再建された。

正門付近、あるいは天守木造復元イメージのVR映像の体験等を通じた気運醸成の機能も兼ね備えております。

階段体験館などでの活用を進めてまいります。また、木造復元に向けて現天守閣が再建されたときのような機運醸成も図ってはどうかというご提案をいただきましたが、私といたしましても同感でございますので、事業再開、どうしたら市民の機運が高まるのか、他城郭の取り組みなども参考に広く検討を進めてまいりたいと考えております。以上でございます。

浅井正仁(自民)：私、芳名板はこそが現在の天守閣に対する当時の名古屋市民の強い思いを今に伝える歴史的価値そのものだと思います。あらゆる機会を捉えて現現在の天守閣の価値を多くの人々の気を記憶に残せるような取り組みをしていていただきたいと思います。それから市長、象徴ね。市長の言う象徴。世界に誇る名古屋の歴史と文化の象徴という答弁をいただきましたが、象徴を歴史と文化で片付けるならば、市役所の本庁舎でテレビ塔でも、今の現天守でもいいんですよね。象徴とはそれを聞いて一つのものが連想できないといけな

いね。

例えば日本の象徴はどなたですかって言ったら天皇陛下ですよ。

戦災復興の象徴といえば、名古屋城です。

震災復興の城と言ったら熊本城ね、今やろうとしている天守閣の木造復元のすごいところは、元々あった石垣の上に立てること、つまり特別史跡を構成する石垣の上に、当時の姿に現代の技術を駆使して復元することに価値があるということ。あなたたちは、木造復元の本質的価値の意味が本当にわかってたのかなって思うんですよ。江戸時代の天守閣を令和の技術で蘇らせる。

つまり江戸時代の石工職人、穴太衆が積んだ石垣と、令和の時代の最新の建築技術の融合400年のときを超えて再び築造当時の姿を現代技術で再現することで蘇らせる。

高まる価値それこそが、本質的価値を高めるという意味です。

天守閣の木造復元は、江戸と令和を結ぶ名古屋の誇りの象徴であるべきだと思います。

そして完成した、蘇った城これが名古屋市ですよ。こういうストーリーを作らなきゃ駄目ですよ。

世界に誇る名古屋の歴史と文化の象徴なんで、今まで一度も私は聞いたことがないし、多分質問されてから作ったんだよね、市長さん、違うかな。

で市長一つだけ違うところがあって、市長は史跡の保護、現天守の価値の評価、機運の醸成、この三つだって言ったんだけど、当初最初はこの三つでよかったでしょう。

だけど一つね、ここにバリアフリーという大切な要件が入ったんです。

そのことも忘れないでいただきたいと思います。今まではこんな議論もできなかった。

前の市長さんは持論だけ言って、僕の質問からほとんど逃げていた。

でも今回ね市長さんという議論ができたね、これは対立から対話に変わったんだなそんなふうに思ってますんで、しっかりとこの名古屋城、買ってしまった木材どうするのかしっかりと考えていきたいと思ってますんで、今後ともよろしくお願いしたいということで、私の質問を終わります。